

第2版の序

本書が出版されて3年になります。その間に多くの方々にご愛用いただき、このたび第2版を出版することとなりました。初版につきましては、多方面の方々からご意見やご指摘を多数いただき、増刷のたびに可能なかぎり正してまいりました。この場を借りて御礼申し上げます。

今回、第2版を出版するにあたって、本書のコンセプトにより合うよう、あらためて項目ごとに学習のねらいと内容の再検討を行い、図表と文章を改訂いたしました。各章で学ぶ内容も、学習の目的をわかりやすくするために文章で表現して章の冒頭におき、また、学習内容の再確認に使えるよう、各章末に問題例を加えました。このことによって、各自が学んだ知識の再確認がしやすくなったと思います。

生物学、いわゆるヒトを含む生命体の生き様にかかわる情報量は、近年膨大な内容になってきています。特に遺伝子にかかわる情報は、信じられないほどの速さで提供されている現在、多分野にわたる生物学の各領域のすべての最新情報を知識として記憶することは不可能かと思われます。しかし、生命の根底にある共通性を理解しさえすれば、その多様性を習得し、活用することも容易になるでしょう。

情報の収集にはネット検索などの方法もありますが、自分の知りたい内容の糸口が得られるよう、初版と同様「わかりやすく」をモットーに、かつ最新の生物学的情報はもちろん高校生物の新課程も吟味いたしました。そしてオールカラーの図表や写真をふんだんに掲載し、知っておくべき生物学の知識がより理解しやすい紙面となるよう、執筆者一同心がけました。

編集を担当いただいた出版社の方々にもご協力いただき、第2版はさらに見やすいカラーリングや使用する紙質にも留意し、より学習しやすいものになったのではないかと自負しております。

本書によって多くの方々が生体科学の知識を深めることができ、さらに生体科学により一層の興味をもってくだされば幸いです。

2014年9月

著者を代表して
南雲 保

初版の序

『人間の一生で、臨終ほど荘厳なものはない。それをよく見ておけ。』これは山本周五郎著『赤ひげ診療譚（新潮文庫）』のなかで、赤ひげこと新出去定（にいできょじょう）が新米医師の保本登に発した言葉です。「生命」とは何でしょうか。これは私たち人類の永遠の課題です。生物学はこの難題について取り組んだ科学といえます。生物学を学び、生物について知識を深めることは、ヒトを含めた生命体の仕組みを知ることになります。それは自然と生命に対する畏敬と尊厳の念を抱き、深い理解をもって豊かな人生を送るために、最も役に立つものと考えます。

生命のもつ共通性（一様性）は、近年より深く追求され、その意味が明らかになってきました。それと並行して現在は生命の多様性にも注目が集まり、急速にその知識が蓄積されています。生命の共通性を知り、自分の知識として記憶されれば、多様性の知識を習得するのも容易となります。

この地球上に生命が誕生してから、約38億年という長い年月が経過し、多様な生物の出現と絶滅を経て、現在数百万種の生物が生存しています。その悠久の生命進化における生物の一員としてのヒトを認識し、それ以外の地球上の生命体の多様な生き様を知るとは、自己の実現と確立にもつながることでしょう。

生命体を作っている物質、遺伝子、個体、環境、生命倫理など多彩な内容を限られた紙面に盛り込むことはなかなか難しくもありました。しかしながら、「わかりやすく」をモットーに丁寧に解説し、かつ最新の生物学的知識を厳選しつつ、オールカラーの図表や写真を随所に掲載することにより、理解しやすい紙面となるよう執筆者一同心がけました。また、多くの方々から貴重な写真の提供も受け、さらに編集を担当頂いた出版社の方々にもご協力いただき、無事出版にこぎ着けたことを深く感謝いたしております。

本書を座右にし、多くの方に活用していただき、生物の知識を深める一助となれば幸いです。

2011年2月

著者を代表して
南雲 保